

# 小倉南ケアセンター 和が家

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		理念は、フロアや事務所内の目に入る所に掲示し、いつでも改めて確認出来るようにしている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		新職員や、介護職に就いて間もない職員にも理念や方針、具体的なケアを理解してもらえる様に分かり易く話していく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		家族には理解して頂いているが、もっと地域の人々にも理解が得られるよう努力していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		挨拶を交わしているが、気軽に立ち寄ってもらえる場にはなっていない。例えば地域の交流の場としてホームを提供する等して、もっと隣近所とのお付き合いが出来るようにしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		利用者の重度化に伴い、外出し、地域活動に参加出来る機会が少なくなった。もっと工夫して、少人数で短時間づつでも活動にコンスタントに参加できるように努力したい。

## 小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の暮らしに役立つことが出来ていない。		地域密着型サービスの役割として認知症の理解を育む等、地域へ向けて役立つ事が出来る様努力したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を分担し、各々が評価の意義を理解できる様にしている。又評価結果を回覧し、各々が理解した上で、合同会議の際に、改善点を改めて確認し、改善策をあげ、改善に向けて取り組んでいる。		改善点を一つ一つ丁寧にゆっくり、出来る限りの範囲で改善できる様取り組んでいる為、全部改善するには時間がかかっているが、今後も丁寧に確実に改善し続けられる様努力していく。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、ホームでの取り組み状況を報告している。又そこでの意見や指摘も改善できる様改善策を考え、取り組んでいる。次の運営推進会議に改善内容を報告している。		回を重ねる毎に皆が打ち解けあい、表面的だけでない意見や質問が飛び交う様な関係を築きあげていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者を中心に、グループホーム事業所同士で築いたネットワークを活かし、サービスの質の向上に取り組んでいる。		担当者が変更し、他の事業所一同会す機会は無くなったが、その時築いたネットワークを活かす事が出来ている。新担当者とも、更に行き来する機会を作り、より良いサービスが出来る様努力したい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見人制度については、相談があれば説明し、相談機関に紹介している。パンフレットを玄関に置き、見られる様にしている。それに関する外部研修にも参加し、研修内容を回覧したり、合同会議に報告したりして皆が共有出来る様にしている。		職員の理解を深める為に、更に外部研修に参加したり、内部研修を実施していきたい。それを利用者や家族に活用できるよう支援していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の合同会議で拘束の現状と虐待について話し合っている。ベッド2点柵を使用している方法、拘束のある方については、今後も必要なのか代替方法はないか等を話し合い記録している。それをする事により、職員の虐待や拘束に対する意識を高めている。		一時的、突発的に拘束が必要で行った時も記録に残している。虐待について更に深く学び意識を高めることで虐待を予防できる出来る様努力したい。

## 小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	ホームのパンフレット、契約書、重要事項説明書を用い、十分に時間を取り、説明と理解をして頂いている。		契約の解除時のみならず、契約期間中にも疑問点があれば気軽に質問していただける様な雰囲気作りに努めたい。
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	日常での利用者の意見や不満を聞き、又は(認知症の重度の方は)取り組み、それを聞き入れ実行に移したり解決するようにしている。		認知症を患っていて感情や思いを上手に素直に表しにくい利用者の訴えを受け止める事が出来る様努力したい。内容によっては、家族にも協力を仰いでいる。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	利用者の暮らしぶりについては、ホームのお便りで特別な変化があれば電話で報告している。金銭管理については、毎月の請求書と同封の上、報告し、面会時にも報告している。職員の異動についても運営推進会議の際や、面会時に報告している。		家族との連絡を密に取り、ホームでの出来事は隠さず報告し、透明にする事でお互いの信頼関係を築きたい。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	運営推進会議に多くの家族に参加いただき様々な意見や苦情を聞き、報告書により全職員へ伝達し、改善策を考え、同じ苦情を再び受けないよう努力している。		会議と言う公の場だけでなく、面会時や電話でも気軽に話していただける様な雰囲気を作っている。又「ご意見箱」等も用い面と向って言えない内容の事も聴く事ができるよう今後配慮したい。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	職員の意見や提案は、主任、又はホーム長、センター長へとつなぎ、反映できるようにしている。		新しい職員にも新鮮な意見や提案を出来る機会を作り大切にしていきたい。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	行事がある時は、職員を増やし、柔軟な対応が出来ている。又必要であれば勤務時間帯や勤務内容を話し合いの上、変更し、より良い支援が出来る様にしている。		利用者の急な体調変化には、既定の職員人数では十分な対応が出来ないこともあり、家族の協力を仰ぐ事もある。そういう時にも柔軟な対応が出来る様話し合って行きたい。
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の異動は、最小限に抑えて、馴染みの支援を提供できる様にしている。なるべく離職による利用者へのダメージを防ぐた為、運営者と管理者が職員が働きやすい環境作りをしている。実際にダメージがあっても、勤務変更や特別の対策をとってカバー出来る様にしている。		離職率の高い職場ゆえ、離職も少なからずあるが、職員の悩みや要望を聞き、改善出来る様な環境を整え、ひいては利用者や家族へのダメージを減らす事が出来る様に努力したい。

## 小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の募集採用にあたっては、性別や年齢を理由に採用から除外する事が無い様努めている。採用の際には、本人が持っている個性をを引き出せる様担当業務を決め、出来る限り勤務時間の希望を聞き入れ、シフト表を作成している。</p>		<p>性別や年齢や個性が様々だと介護に幅が生まれてくる。それぞれの能力を活かし、利用者も職員も生き生きと出来る職場にしていきたい。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>「接遇マニュアル」「人権マニュアル」を作成し、何時でも職員が目を通せる様にしている。又合同会議の中でも接遇等の研修を行っている。</p>		<p>内部研修、外部研修に、職員の希望を聞いたり、外部からの案内が来た時に、その都度検討しているが、年間で計画は、出来ていない。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新職員の業務については、先輩職員が付き添い実施指導を行い、知識やレベルアップに努めている。外部の研修は、個々にあった研修を選び、参加を促している。研修は、合同会議で研修内容を報告したり、回覧して皆が目を通せるようにしている。</p>		<p>育成については、個々のペースに合わせてトレーニングしていく。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>今まで築いた近隣業者のネットワークを活かし、情報交換を行っている。又色々な研修に参加する事で、新しい交流が出来、それを機会に新たなネットワーク作りに励んでいる。</p>		<p>定期的な交流会は設けていない。今後積極的な情報交換や交流の機会を作り、相互に向上していければと思う。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>両ユニット主任、両ホーム長がいつも職員の悩みやストレスを認識しており、必要であれば個々に時間を設けて面談をして、相談できる環境を作っている。解決策はセンター長を含めて見出している。</p>		<p>特に新職員については、人間関係も出来ておらず1人で悩みを抱え込まないように配慮している。</p>

## 小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員1年間の目標を定め向上心を持って働けるようにしている。内部研修では、職員の希望の内容を取り上げ、外部研修では、個々に合った研修を選択し、参加を促している。		各職員がどんな事に疑問や関心を持っているのかを把握し、それに対する答えを出したり、関心事を学べる道しるべを作ってあげ、それが更なる向上心結びつけられる様努力したい。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の生活歴や既往歴を聞き取り、悩みや希望を聞いた上、組み取ったりしながら、個々の性格も踏まえ本人に合わせた声かけや傾聴を行っている。		事前面談では、利用者の全ての事を聞き取る事は難しい。入所後も利用者との会話の中で、本人の思いを傾聴出来る様に努めたい。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に家族と面談をして、現状や悩み、ホームに期待する事を傾聴する機会を作っている。それを記録し皆で共有する様努力している。		利用者同様ご家族の思いを全て一度に聞き取る事は難しい。会話の機会を多く持ち信頼関係を築いた上で真の思いを聞きだせるよう努めたい。
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の会話を多く持ち、その時まず必要としている物が何なのか、又それがグループホームで、もしくは、当ホームで十分対応出来るものなのか見極めるようにしている。		職員や会社の都合に合わせるのではなく、家族や利用者の思いに沿ったサービスを提供していきたい。それが当ホームだけでは、応えられない物であれば、他のサービスの利用も考えていく柔軟性も持ちたい。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談持ち込み等、予約時に十分見学や説明をしている。又実際に約一週間程の体験入所を必ずして頂き、他の利用者や職員とふれあい、場の雰囲気を体験して頂いた上で本人、家族に納得していただいた上、入所という形を取っている。		ホームの職員や環境に慣れてもらうだけでなく自宅での生活の延長のような感じで生活出来るよう援助していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は、介護者は「介護する人」「介護される人」ではなく「人生の先輩であり、豊富な経験の持ち主である」という事を念頭に置き一緒にホームで生活をしていく中で、色々なアドバイスや話をし、良い関係を築いている。		利用者職員が共に過ごし、喜怒哀楽を共にし、心が通じ合え、支えあえる関係になれるように努めたい。

小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、出来るだけ会話を持つようになっている。利用者の日頃の生活の様子を伝えホームからの心配事や悩み事を家族に相談し、本人の生活上の癖を聞いたり、アドバイスを頂くことで、又家族と一緒に介助してもらうことで、本人と一緒に支えていく関係を築いている。		利用者だけでなく、家族も含めて、一緒に楽しめる場所作りをしていきたい。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時間の制限は設けておらず、気軽に面会に来て、フロアで他の利用者と一緒に過ごしたり、居室でゆっくり過ごしていただける様にしている。行事や会議にはなるべく参加していただけるよう支援している。		これまでの本人と家族の関係がたとえあまり良くない物であっても、お互いの心のケアを行い、それが良い関係に転じるきっかけになる様努めたい。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、近所の方々や、友人知人にも来て頂ける様に声をかけている。又何時でも外食や外出、外泊が出来る事を伝えている。		友人知人にも声をかけ、楽しい雰囲気作りに努め、又面会に来たいと思って頂ける様努力したい。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者がプライベートな時間を持ちながら、反面利用者同士一緒に食器拭きや作業をしたり、晴れた日には、ベランダに出て日光浴をしながら会話できるよう援助している。各利用者の個性や出来る事等に配慮しながら関わり合える機会を作っている。		孤立しない様常に見守りを行い、利用者同士の関係が悪い物にならないよう調整していきたい。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了したり、もしくは、本人が亡くなられた後も、家族が立ち寄ってくださったり、又は他施設や病院に、こちらから面会に行ったり、もしくは、お通夜やお葬式等も出席させていただいたりして、すぐに関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		契約後も、介護職として必要として頂ける機会があれば、躊躇無く相談していただける様な付き合いを続けていきたいと思っている。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の些細な会話の中やふと漏らした言葉の中から本人の望みをくみ取り、把握する事に努めている。職員で検討し、本人が安心して気持ちよく生活して頂ける様心掛けている。ホームでの対応だけでは困難な時には、ご家族にも協力を仰いでいる。		アセスメントの手段としてセンター方式を取り入れていける様準備を整えていく。

## 小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際に本人や家族に生活歴や生活環境の情報収集を出来るだけ行っている、誰にでも分かるようにファイルしている。入所後も新しい情報が得られれば職員間で周知出来る様にしている。		入所時に十分なアセスメントを取り情報収集しているが、入所後も会話の中で情報を見つける事が出来るようにしたい。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の心身の変化や言動を生活日誌や受診結果シート、申し送りノートに記録し、情報を共有、把握できる様に努めている。		体調の変化を敏感に感じ取れる様アンテナを張ってその現状にあった支援をしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族に要望を聞き、身体状況や生活状況をアセスメントを行った上で、カンファレンスの時に職員間で話し合い、意見を出し合いそれを基に作成している。		担当職員一人やもしくは、計画作成者一人だけの考えにならない様、皆と話し合って作成するようにしている。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間を設けて、その計期間に応じて見直しを行っている。期間満了以前に急激な変化が起きた時は、その変化に応じて見直しと再計画を作成をしている。		体調不良時入院等による状況変化に応じて計画書を見直し、再作成している。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、生活日誌や健康日誌に個別に記録している。介護計画の実践も生活日誌に記録し、情報を共有し、見直しに活かしている。		記録は、漏れのないようにしている。記録様式もより見直しやすい様、改善し続けている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階のデイサービスの行事に参加したり、デイサービスのフロアに散歩に行ったりし、要望に応じる事が出来る様努力している。		今後も多機能性を活かした支援を拡大していきたい。

## 小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の行事に民生委員や町内会長を通して参加させたり、太鼓の競演者やハーモニカ演奏者、踊りの先生等にボランティアとして来て頂いたりしている。消防訓練の際には、AEDの使用方法、緊急時の対応も教育して頂いている。		今後も継続していくと同時に、更に協力の呼びかけをしていきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの利用に至っていない。		今後他のサービスも利用出来る様支援していきたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域運営推進会議には包括支援センターの担当者に参加して頂いて、様々なアドバイスをもらっている。		地域包括センタとの関わり合いを更に密にし、他施設の情報や意見を取り入れていきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と密に連絡をとり、隔週で往診を受けられる様になっている外、急変時にはいつでも電話相談し、医師の指示を受けられる様にしている。又希望であればホームの担当の医師以外の医師をかかりつけ医にも出来る様にしている。又歯科受診や、眼科、皮膚科受診も出来る様支援している。		かかりつけ医との関係は十分築けている。更に良い医療提供を目指していきたい。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医が物忘れ外来を実施している為、認知症についても相談出来、治療が行えている。		かかりつけ医との関係を密にし、勉強会等にも積極的に参加していきたい。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームの看護師が情報を把握し、往診にも付く様になったので、更に気軽に相談出来る様になった。毎朝排便状況をデイの看護師に連絡し、腹音を聞いて必要であれば浣腸や排便が出来るようにしている。かかりつけ医の看護師ともコミュニケーションがとれている。		各利用者の既往歴や周辺の状況を把握した上で、往診にも付いてくれる看護師が出来たので、更に良いケアが出来ると思っている。

## 小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先に面会に行き、現状を把握したり、利用者と会話をし、安心してもらっている。又看護師やソーシャルワーカーとも情報を交換し、利用者がベストな状態でホームに戻ってもらえる様努めている。		面会に行き、なじみの顔を見せる事でとても安心した顔をされる。同時に現状を見て、今後の退院への方針を見極め、早期の退院に努めたい。
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に看取りについての話をしている。徐々に重度化していく過程にも、本人や家族の意向を確かめる様にしている。看取り状態になった時は、医師と家族、職員と何度も話し合い、方針について共有している。		日頃から終末期のあり方を気軽に話し、希望を聞く事が出来る機会を作っていきたい。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期は、本人や家族の意向を踏まえ、医師と相談した上、本人に必要な医療や介助がどんな物で、それがホームで出来る事なのか、出来ない事なのかを話し合い見極め、それを本人やご家族に納得して頂き、その中で出来る支援を行っている。		かかりつけ医を軸にしたチームケアが出来るようになっていきたい。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人のダメージが最小限になる様に、家族や関係者と何度も情報交換を行い、連携を十分に取っている。		限りなく自宅での生活をそのまま継続出来る様なケアを高い目標として支援していきたい。
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修やマニュアルを参考にしながら、言葉使いやプライバシーの保護に十分配慮し、接している。個人情報の保護への配慮も行っている。		言葉かけや対応は馴れ合いになると雑になりやすいが、人としての尊厳を大切に、プライバシーの確保に取り組みんでいきたい。

小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	色々な活動の参加の有無等は、本人の分かる力に合わせ、本人が参加してみたいという気持ちになる様な説明を行っている。無理強いせず、本人の意思を確認し、希望を取り入れた活動を行っている。		各利用者に合った分かり易い表現でその方の意思表示をキャッチできる様に努めていく。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や希望に合わせて本人のペースで生活出来る様にしている。日々の観察の中で個々の生活リズム得意分野や趣味を把握し、意欲的に暮らせる様支援している。		1人1人希望が違うので、その人の希望や生活ペースを崩す事なく日々を過ごしてもらえ様努力する。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の希望に合わせて月1回の訪問理美容に来てもらっている。		なるべく利用者の意向で髪型や洋服を選んでもらっている。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの利用者の体調や残存機能を使い、利用者の負担にならない様おかずの注ぎ分けやもやし根切り、大根のすり下ろし、食器拭き等して頂いている。食事は職員が同じテーブルに座り、介助しながら、会話をしながらしている。		出来る事が少しづつ少なくなっているのを感じる。今出来ている事を大切に、利用者の楽しみになり、又負担にならない様支援していく。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品は家族が一番把握している為、家族がそれぞれ持参して下さっている。		家族の差し入れ以外にも、自分の好きな物を購入出来る様援助していきたい。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を用い、各々の排泄パターンを記録し、排泄パターンを把握する事で、失禁前に声かけやトイレ誘導をする事なるべく失敗しない支援を行っている。		たとえ排泄に失敗をしても、利用者の自尊心を傷付けない様、気持ちに配慮した声かけで支援をしてきたい。

小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎朝バイタルチェックを行い、体調に変化がないか確認後、利用者に声をかけ、同意の上入浴を行っている。ゆっくりと湯舟につかり、リラックスした所で会話をしたり、1人で静かに入ってもらったりとその方の好きな様に楽しんでもらえる様支援している。		利用者1人1人に「入浴したい」と思って頂けるタイミングがあり、入浴するに当たっての手順やペースがある。それに合わせた入浴介助を心がけていきたい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	各々の体力や生活リズムやその時の状況に合わせて自由に安心して休憩時間がとれる様支援している。		生活のペースを把握して、安眠出来る様に環境を整備していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月毎に生活リハビリの担当職員を決め、各職員がそれぞれ利用者が張り合いや喜びのある生活が出来る様考え、その人に合った支援をしている。		色々な生活リハビリ材料を提供してみて、その中から1つ1つ楽しみごとを見付け出せたらと思う。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	概ね、ホームで預かり保管しているが、希望があれば使える様にしている。認知症により、管理をする事が難しいが、少額でも持つ事で安心される方は、所持してもらっている。		好きな物が購入出来る喜びを感じてもらう為にも、利用者を買物にお連れ出来る様な機会を増やしていきたい。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	全体的に身体レベルの低下が見られ、戸外へ出かける事は難しくなっているが、その日の身体状況に合わせて近くへ散歩やゴミ捨てに行ったり、ベランダに出て、外の空気を感じてもらったりしている。		少しでも外気に触れると気分転換になるので、そういう時間を短時間でも小まめに作れる様にしたい。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地域交流の為夏祭りに参加したり、年に1回お花見や遠足に行ける様努力している。又個別にお買い物にお誘いしている。利用者によってはご家族と外食に良く出られる方もいらっしゃる。		家族との連携で外出の機会が増えるようにしていきたい。

小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙に関しては支援出来ていない。電話は、要望があればいつでもかけられる様援助している。利用者の携帯をお預かりして、お部屋やフロアで気軽にお電話を出来る様支援させて頂いている方もいる。		年賀状や暑中見舞いを出せる様援助していた事もあったが、あまり乗り気ではない方が多く、今は援助出来ていない。楽しくお手紙が書ける様又援助していきたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人知人が来所された時は、気兼ねなく過ごしてもらえる様支援している。フロアや居室で楽しく過ごされている。		面会の方が安心して頂ける様に、笑顔で接する事を心がけている。行事にも参加出来る様声をかけ、共に楽しい時間を過ごせる様努力したい。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の合同会議で身体拘束について話し合い、記録に残している。現在本人の「これが無いと不安」「布団が落ちるから」という理由からベッド2点柵を使用されている方がいる。		説明の上、ご家族には介護計画書にサインを頂く時に、ベッド2点柵承諾書にもサインを頂くようにしている。今後も見守りを強化したり、工夫したりする事で身体拘束をしないケアを目指し、努力する。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは2階にあり、窓から出る等危険なので鍵をかけている。又外へ通じるドアにも鍵をかけている状況である。		ホームは、車の通りが多い道路に面している為、万が一離苑すると、危険である為安全を考え鍵をかけているが、鍵をかけず、プザー等の代替品で鍵をかけない努力をしてきたい。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はほとんどの方がフロアで過ごされるが、居室にいる時は時々声をかけ安全確認を実施している。夜間は最低1時間に1回の巡視を行い、記録をしている。		プライバシーに配慮しながらも、安全の確認は声かけを十分に行っていく。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所で使用する刃物類やハサミは特別に管理している。物品を全て取り除くのではなく、利用者の癖を良く理解し、その方に合った見守りをしている。		台所の刃物類は、箱に入れて冷蔵庫の上に保管している。職員同士常に声をかけ合いながら、チームで、取り除くのではないケアを行っていききたい。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の行動を把握し、事故防止に取り組んでいる。合同会議で危険と思われる事例に関しては皆で話し合いをしている。		チームワークで、事故防止に努めていきたい。又実際事故が発生しても、職員がパニックにならない様に緊急時マニュアルを頭に入れておくようにする。

## 小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	内部研修で応急手当や急変時の対応について勉強している。事故発生時に備え緊急時マニュアルを作成し、すぐに閲覧出来る様にしている。		新人職員を含め、全職員が緊急時に対応出来る様に知識を身につけたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。非常時の避難経路を確保し、緊急時に職員が誘導できるようにしている。		今後は地域の方との関わりを深く持ち、災害時に協力が得られる関係を築きたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	常に家族とは現在の状況や、起こる得るリスクを伝え、対応策を十分に話し合っている。		リスク回避の為に、何もかも規制するのではなく、尊厳ある生活を守りながら、リスクも回避出来るケアが出来る様努力したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックに加え、利用者の普段の様子を観察する事で、異変があればすぐに発見し対応出来る様にしている。それらを職員間で申し送り、記録する事で情報を共有している。		様々な記録用紙を用い、各々の体調の変化が詳細に見て取れる様に記録をしている。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や内容、医師の指示はその都度受結果シートに記載している。毎週薬チェックシートを更新し、職員に配布して、内容の確認がいつでも出来る様工夫している。		利用者1人1人の薬状を見えやすい様にファイルしており、又過去の薬状もファイルし、職員がいつでも取り出して確認出来る様にしている。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘による影響を理解し、便秘予防の為に排泄チェック表を用い、排泄状況を管理し、水分摂取にも気を配っている。又、緩下剤を適宜調整している。		排便 - 3日目以降の方は看護師に異常がないか腹音を聞き、確認してもらっている。又栄養士作成の元、便通の良い食材を多く取り入れた食事を提供している。毎朝適度に運動出来る体操を行っている。

小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、必ず口腔ケアを行っている。ご自分で出来る所はご自分でしてもらい、出来ない所は援助している。義歯に関しては、市販の義歯洗浄剤を使用している。		訪問歯科医との連携を密にし、口腔状態を把握し、口腔内トラブルの無い、健康な口腔を維持出来る様に努めている。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は常に1人1人摂取量を記録し、確認している。水分量も特に摂取の出来ない方に関しては好きな飲み物を用意する等工夫して、水分摂取量をチェックし、水分の確保に努めている。		特に水分の入らない方には、その方の好きな飲料水を購入し、少しでも水分確保が出来る様小まめに声をかけている。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。他の感染症についても感染症マニュアルを作成しており、マニュアルに沿った予防や対応を行っている。		職員は全員出勤時に手洗い、うがい、消毒を行っている。面会の方にも行ってもらえる様声をかけている。身体、寝具、衣類など常に清潔が保持出来る様配慮している。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、台所用具を清潔に保つ為、消毒や掃除を小まめに行っている。食材は主に厨房で管理していて、余分な食材は置かない様になっている。		毎日、曜日毎に台所や台所用具の消毒や掃除の場所を決めていて、夜勤者が行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外玄関には植木を植え、中の玄関には植物や置物、絵、又季節に合った飾りを使い、親しみやすい雰囲気作りをしている。		ご家族のみならず、近隣の方々にも気軽に来ていただける様な雰囲気作りを行っていきたい。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、季節を感じられる様な飾りつけを、時には利用者と一緒に作ったり飾ったりしている。利用者の作品も展示している。トイレの照明は自動点灯であり、他の共有空間の光や不快音は職員が小まめに気を配り調整している。		不快にならない様配慮しながら、楽しい空間作りをする様心がけている。

小倉南ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人1人決まった席を設けて安心した自分のいつもの居場所を作ったり、ソファーを用い、気の合った利用者同士でくつろいでもらえる様工夫している。ベランダにはベンチも置いて、外で会話出来る様にもしている。		1人で過ごしたり、仲間と過ごしたりとそれぞれが「居心地の良い場所」となる様、常に思い支援していきたい。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれ自分の好きな物を居室に飾り、居心地の良い空間作りになる様援助している。		昔の写真や自分の作品、愛着のある物等々自分だけの空間作りが出来る様、安全面にも配慮しながら支援している。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室にはエアコン、加湿機があり、利用者に合わせて温度湿度になる様配慮している。朝の掃除の際に窓を開け換気を行っている。		温度計、湿度計を設置し、小まめに確認し、エアコンの強弱を調整している。加湿機も各利用者1個ずつ用意して頂いている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアには手すり、浴室には滑り止めマットを使用して、安全に生活が出来る様工夫している。		夜間は居室の電気はすべて豆電球にし、真暗にして転倒する事のない様配慮もしている。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	分かりやすく大きな文字や絵で表示したり、迷っていたらさりげなく声をかけ、混乱しない様努めている。		利用者それぞれ分かる所と分からない所が違うので、その方に合った分かりやすい環境作りを工夫したい。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにはベンチがあり、そこで日光浴をしたり朝の体操をしたり、会話を楽しまれている。又田んぼや川や山の見えるホーム周辺を散歩したりしている。		今までよりももっとベランダや外周りを活用出来る事を考えていきたい。

小倉南ケアセンター 和が家

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

## 小倉南ケアセンター 和が家

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々、レベル低下している御利用者様が、いかにその人らしく、自分を主張出来るのか。わがままではなく共同生活をしていく上での残存機能を活かした生活リハビリを各々実践中です。何事に対しても全く興味を示す事のない方もおられますが、少しでも本人の希望を聞く事が出来ればと日々努力中です。身体レベルが低下しても安全に安心して過ごしていただける様に健康管理にも留意し、笑顔の毎日をおくっていただける様、奮闘しています。